

## 編集室から

時節柄、みなさま如何お過ごしでしょうか？  
ニュースでは著名な方の訃報が続き、驚きとさまざまな想いが交錯いたします。

毎号、表紙の写真は一年前に訪れた際のも  
をご紹介していますが、昨年の今頃、翌年の春  
がこのような状況になるとは夢にも思いません  
でした。同様に、今から一年後がどうなってい  
るのか、全く予想がつかないのは、人間という  
生き物の限界であります。それであるが故に  
楽天的にもなれる素養でもあります。

このような時期に、廃墟の写真を掲げるのも  
どうしたものかと考えました。かつて一大産業  
拠点であったこの島は、永く放置されたままで  
したが、今は美術館となって訪れる方々の癒し  
や、撮影の場となっています。

ということは、当時の人々にとっては大きな  
嵐のような出来事も、「時」という魔法がやが  
ては自ずから、別の何かに変えてくれるとい  
うことなのかもしれません。

世界恐慌まで遡らずとも、東日本大震災を始  
めとする各地での自然災害の数々、リーマン  
ショックなどの幾度もの経済変動に直面する  
も、その度に我々は乗り越えています。

経済活動は、ヒト・モノ・カネの動きで成り  
立っています。「金融危機はカネだけが止まっ  
たが、今回は3つ全てが世界規模で止まる稀有  
の危機だ」とする専門家がありました。一方で、  
「これだけの場面に居合わせることを選んで生  
まれてきた我々は、勇気ある相当な挑戦者魂を  
持っている」という方もいらっしゃいます。

世の影に見入ってしまう生き方も、将来への  
希望を失わず、光を見出そうとする生き方も、  
どちらの選択も自由です。ですが人間も、命を  
授かり、育てていくことが根本使命である「生  
き物」である以上、根本使命に遵ずる生き方に  
徹したいものです。(は)



のと  
だらぼち

本ニュースにレギュラー  
執筆していただいている  
川島さんが「能登だらぼ  
ち」を引き受けて改装開  
店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち  
03-5537-3078  
17:00 ~ 23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27  
プラザ銀座ビル地下1階  
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術  
者を育てることを目的に発行を始めました。  
その後、計画という仕事の内容や、普段、  
計画マンがどのようなことを考えているのか  
などに触れて、少しでも業界を知っていただ  
ければと考えて編集しています。

2020/05  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>  
〒920-1167  
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2020/05  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 泉 月



犬島精錬所跡  
岡山県犬島にて  
by hama

**Stay Home!**  
**Keep the Virus out**

# 寄稿 『新型コロナウイルス (COVID-19) 第三弾』

サンポート高松クリニック 井垣 俊郎

一度だけの予定で始めた新型コロナウイルス特集ですが、予想を超える感染拡大のため止めるに止められなくなってしまう。四月二十日時点の状況をまとめます。

## 治療法について

抗HIV(エイズ)薬であるカレトラは、効果ナシという結論に落ち着きそうです。日本で開発された抗インフルエンザ薬の『アビガン』と『エボラ出血熱』に研究されていた『レムデシビル』については、臨床試験が始まったので結果待ちです。しかし感染を終息に向かわせるほどのポテンシャルが有るかといえば、共に期待薄です。疫学(人々の背景を調べて疾患の原因や治療法を探る)調査からBCG接種も浮上してきましたが、学問的には面白いものの因果関係は不明のままです。またBCGは乳幼児の結核予防を目的にしたワクチンで、出生数を予想して八ヶ月かけて製造されるため数に余裕はありません。現状で大人にBCG接種を行うことは推奨されないとというのが結論です。

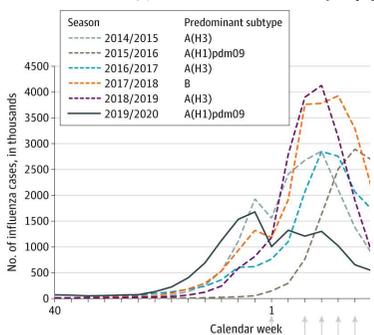
## 予防法について

密閉・密集・密接の三密はもろろんのこと、他人との接触をいかに減らすかが重要です。その上で、体内に入るウイルス量を最小限に抑える『鼻までマスク・丁寧な手洗い・こまめにウガイ』を継続しましょう。その効果は、インフルエンザで証明されました。インフルエンザとコロナは同じRNAウイルスで、同じ飛沫・接触感染をして感染力も同程度と考えられています。黒の実線で示した二〇

一九〜二〇二〇年の感染者数は、week 1で示された年明け以降は例年の1/2、1/3程度に抑制されています(グラフ)。

## 今後の予想

感染は中国から始まり、欧州・アメリカからアフリカに至るまで全世界に広まっています。流行はインフルエンザのように季節性で終息するかも...という淡い期待は、高温の東南アジアや今が夏の南半球でアッサリと潰れ去りました。今回のウイルスは『弱い・しぶとい・長引くと誰でも肺炎・突然重症化』という特徴を持っています。そんな厄介な敵を完全に制圧するには、ワクチンか画期的な新薬が必要で、少なくとも年内は無理でしょう。重症化した場合、治療薬がないので対症療法で粘るしかありません。しかし肺炎が急激に悪化した場合は人工呼吸器で手に負えず、ECMO(体外式膜型人工肺)が必要になる症例が増えてきます。二〇二〇年三月の調査で、ECMOは日本中に千四百台程でした。最少が徳島県の五台、次が福井県の六台、石川県は九台、香川県は十九台でした。最多の東京都でも百九十六台です。重症例がその数を越えた時、どうしたら良いのでしょうか...



【プロフィール】  
いがき としお(金沢大学北浜寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。)

## 濱の起業塾 『起業塾 十三検証』

社会的事業を興す志を立て、機会を捉えて、事業の具体的な着想を固め、検証すべき事項を予め設定した上でトライアル・テストマーケティングを行ったら、次は試行結果の検証する局面になる。

この段階は、その後控える起業そのものに大きな影響を与えるものの、実際の現場では必ずしも的確な検証が行われているとは限らない。試行が想定よりも巧く行った場合、浮き足立った評価に陥り易い。逆に、芳しくない場合は、気分が落ち込み事業自体を諦めてしまう方向に走ったりする。

いずれの場合においても、リーダーを始め、マネージャー・プロデューサー・アドバイザー・コーディネーターなどの立場で現場に臨む人は、冷静中庸な視点と姿勢でいる必要がある。

最初から巧く行った場合は、「勝って兜の緒を締めよ」の格言のとおり、巧く行ったと思われる陰に潜んでいるリスクに目を凝らし、更に精度を上げるための問題を明らかにしようとするべきである。

逆に、最初から巧く行かない方が普通であって、その場合の方が、得られる知見・明らかになるリスクポイントは、多い。従って、ここではむしろ、巧く行かなかったことにより、本格起業前にその知見・体験を獲得できたことを喜ぶべきであって、決して失意に陥る必要は無いと想う。

最も怖れる態度は、リスク・不都合点を怖がる余り、それから眼を逸らして見ぬ振り・無かった事にする態度であり、逆に失敗を恐れるあまり、戦わずして退く態度である。

ある投資家が、投資をすることで、最終的に起業家の熱エネルギーで判断する」と言っていた言葉は、社会起業にも全く当てはまる。「巧く行きそうにないですな」という評価には、熱が無い。「どうしたら巧く行くのかを考え抜こう・道を見出そう」という姿勢は、熱に溢れている。起業の成否は、社会情勢や着想の良し悪しよりも、起業家の熱量からの影響が大きい。

始めは小さな思いであっても、賛同する仲間が増え、思いがけないことが起こり始め、いつしか成功事例とまで言われるほどの成果を挙げた現場を見てきた。人は、熱を帯びた人に共感し応援したくなる生き物だ。

複雑で難解なことを、専門家や為政者等が一般人に解説・誘導しようとする場合、単純で平易な論法にまとめ明快な結論を示すケースと、複雑で難解なまま広がりのある結論を示すケースとがある。本来、専門家や施政者にさえ複雑で難解なことを、その道の素人へ単純で平易に、かつ全てを正確に伝えることは不可能である。その変換には必ず省略や飛躍や置換・比喩があり、それが善意からくるリアルなのか悪意からくるフェイクなのかの見極めが実に難しい。そうかと言って、複雑で難解なままでは、残念ながら世の中に伝わりにくいのが現実である。

人を乱暴に、コミュニケーション力と善悪度の2軸4象限に分類する。

- ・ 伝え上手な善人
- ・ 伝え上手な悪人
- ・ 伝え下手な善人
- ・ 伝え下手な悪人

伝え上手な悪意ある専門家や施政者等がいて、その人がある不誠実な意図を持って不正確な論を流布するケースが最も困った事態である。悪い人でも伝え下手であればあまり実害はない。

古来より一般に人は、単純で平易な話が心地良く、複雑で難解な話は生理的に拒否しがち。今は巷に玉石混淆のまま数多の論が溢れ、誰もがそれらに指先でアクセスできる時代である。おまけに、納得する論をうまく探し当てたら、それを周りの人達に指先一つで広めることが可能な時代でもある。

地頭と客観性と情報リテラシーが高い一般人でも、その道の素人が故に悪意ある専門家や施政者等の巧妙な罠にころっと騙される事がある（特に無自覚なパニック症状の時）。その場合、強いインフルエンスで善意の拡散が連鎖していく。逆にそれらの高さの自負が付け入る隙となり、結果として悪貨の闊歩を手助けしてしまう。繰り返すがそこに悪意はない。

こうして、伝え上手な悪意ある専門家や施政者等の論が、伝え下手で誠実なそれを目立たなくし、隅に追いやり、駆逐していく。また、伝え上手な悪い人と善い人との論戦は、どちらも省略や飛躍や置換・比喩を内在しているため、お互いの弱みを簡単に突くことが可能であり、その姿を見せられる一般人は、混乱し、不審を抱き、分断されていく。

以上、厭世観な問題提起のみです。解決策をあえて無責任に言うならば、

「冷静にいこうぜ！」

大都市だけでなく日本全国にも感染拡大をはじめた新型コロナウイルス。ただこの話をしても、活動自粛する以外何もできないのと、話題にすることすら腹が立つので、今回はこんな時期だからこそ家籠り生活を楽しむ術について考えたいと思います。

### 1.家庭内通貨の導入

我が家では子どもに大人気の祖父のニックネームでもある『シゲルン』を通貨単位とした家庭内通貨を発行しています。俗にいうお手伝いポイントのことなのですが、<ボード版の人生ゲームの紙幣を使っているのでリアリティを演出><還元先はおじいちゃんの財布>というところです。元々祖父は子ども達に何かにつけおこづかいやおもちゃを買い与えていたので、それにあえて理由をつけてあげるというやり方です。

この『シゲルン』、祖父のニックネームを通貨単位とすることで子ども達が名前を連呼しており距離が縮まり喜ぶ。子ども達も自分の頑張り次第でリアルに紙幣が貯まっていくためやる気が出る。親としては勉強やお手伝い、生活ルールを子ども達に伝え実践してもらうためのツールができる。と近江商人も驚きの三方良しの仕組みです。

### 2.シゲルンで家もピカピカに

自宅を各個室とリビング、キッチン、バストイレなど掃除・片づけエリアごとに15区画に分けて札をつくる、別でシゲルン通貨の札をつくり、両方の札を引いて『担当エリア×獲得できるシゲルン』を決める。簡単な片付けでも最大10,000シゲルン(=100円相当)ももらえる事もあるため我先にと朝食後には札を引いています。

### 3.目黒ダーツの旅

家に籠るだけでは心身ともに不健康となるため室内でのトレーニングと並行して、週に2回はハードに散歩することにしています。ただ散歩するだけでは続かないため我が家では所ジョージの番組よろしく『目黒区ダーツの旅』をしています。

Googleマップで無作為にカーソルでポイントを3箇所選択

子ども達が自分たちで

- ・ どういうルートをたどり3箇所をまわるかを考える
- ・ 自宅に戻るまでの総歩数を予測する

前後500歩までの誤差内であれば父ちゃんの全身マッサージを受けられるポイントに着いたら撮影して子ども達でLINEを使い母親や祖父母に送る。

ただゲーム性だけではなく、地図を見て調べる・現地に行く過程で地域を知る・SNSの使い方を知る等、生きる力を養う事もできます。

他にも<お料理動画の作成><国語辞典しりとり> 国語辞典にないワードは×等々で不安だらけのご時勢ではありますが、子ども達と楽しみながら学んだり、鍛えたりする日々を送っています。

『富士の国から ~大魔神のたび~』群馬県への旅 2020.3.7~8  
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

この日のランチは群馬音楽センターの向かいに建つ高崎市庁舎、設計は久米設計、高さは102mで、群馬県内では県庁に次ぐ高さ。両端が丸くカーブしているのっぺりした建物だ。最上階を目指すレストランはある。職員用ではない、しっかりとしたレストランだ。これは翌日訪れた県庁も同じ。静岡県庁にもレストランはあるが、規模、設え、メニューとも遠に群馬県の方が上位だ。選んだメニューはアルケッチャーノの奥田政之監修のパスタ、こだわりの料理が続いた。腹ごしらえの後、展望台で広々とした高崎市を一望した。

この日の泊りは伊香保温泉。草津温泉には二度ほど行っているが、伊香保は初めてだ。松本さんは伊香保に昼間に行くことは殆ど無いと言う。職場での歓迎会や忘年会で夜にチェックイン・温泉・宴会、そして翌朝始業に間に合うように、そそくさと宿を後にするパターンと言う。

急傾斜地に作られた石段の両側に、旅館、お店、射的場、飲食店が軒を連ねている。石段の数は365、石段の下に源泉が流れ、そこから旅館に分湯されている。石段を登り切ると伊香保神社がある。新型コロナのせいで客数は少ないかと思いきや石段には多くに人が出ていた。石段沿いには老舗旅館が並ぶ、他のエリアには相当数の宿があるが、松本さんが伊香保らしいところにと岸権旅館を選んでくれた。施設の古さは気になったが泉質、料理は十分に満足のいくもの、出された温泉まんじゅうの美味さにはドッキとした。



翌日は今回の旅で最も行きたかったところ、群馬県庁がそれだ。

群馬県庁は33階建て高さ153m県庁舎として日本一の高さを誇っている。ちなみに静岡県庁舎別館は100mぐらいかな？群馬県庁がすごいのは、フロアを全面展望ホールとして一般開放し、そこからの眺めが素晴らしいこと、それはどこでもやることだけど、31階にある展望レストランが違う。職員対象ではなく、「高さ」と「県庁という人が集

まる装置」を武器に民間に貸し出しているフロアであり、質の高い洋と和のレストランがそれぞれ出店している。今や県庁舎は夜景ディナーも楽しめるデートスポットになっているのだ。高崎市庁舎もそうではあったが、県はさらに上をやっていた。

今晚テレビで、静岡市が清水区庁舎を「街のにぎわい創出」のために庁舎建設はPFIで、隣地を貸してホテルや飲食店を誘致することを託す事業主の公募をしたが、応募者無く、見直すことになった。

群馬県庁のごとく、賑わい部分も自治体が建てて床を民間に貸すという方がハードルは低いだらう。シースルーエレベーターで上がる展望ホールからは、利根川に架かる群馬大橋のライトアップや、群馬会館のライトアップといったオレンジ色の光と、前橋市の街明かりが限りなく続く光景を楽しめる。県庁レストランが、幸せな時を創出する。イケテル地方創生である。

平成11年まで使っていた庁舎は、昭和庁舎として県政記念館的な形で残され、その中に歴代の内閣総理大臣を検証している。中曽根康弘、福田赳夫、小淵恵三の展示がある。食事なくても滞在時間はゆうに一時間を超えた。こんな庁舎は無い。立体駐車場も凄い、狭いゴンドラに車を入れ込むことはストレスだ。でも、ここは違う。誘導された区画で車を降りると、車がスライドして立体駐車場に吸い込まれる。ここをオペレーションしている方々が、きびきびして丁寧。駐車場からもてなしがスタートしている。

凄いぞ、群馬県！が今回の旅の感想だ。

次はコロナウイルスが去った後に群響のコンサートを聴きに伺いたいものだ。

「松本さん、御世話になりました。ありがとうございました。」  
(おしまい)

